

# 東洋の美、新たななる挑戦

古器旧物といわれるものの中には、日本美術だけでなく中国を中心とした東洋美術も含まれていた。古来より日本美術へ影響を与えてきた東洋の美術工芸は、近代の作家にとっても新たな美を生み出すための不可欠な着想源であり続けた。

9 銅製鼎形花瓶 初代秦蔵六 一点

明治十一年(一八七八) 銅・鑄造  
本体径二四・二、高四一・七



饗飧文や雷文など中国の古銅器の精緻な文様をよく写しながら、いくつかの容器の特徴を混在させた作品である。商・西周時代(紀元前十六〜前八世紀)の青銅器には、広い口縁からすばまった首を経て胴で再び広がる尊と呼ばれる酒器があり、本作の上半分はそれに倣っているが、尊にはない把手が付く。下半分は三足となっており、やはり商・西周時代の罍や角、爵と呼ばれる器の形を想起させる。いずれも当時の王侯貴族が祭祀に用いたものと考えられている。胴部底裏には「明治十一年秦蔵六謹造」の彫銘がある。本作には花を彫り表した三角形の紫檀製の置台が付属しており、底裏には彫銘「岩田半平謹造」がみられる。江戸後期から明治前期にかけて流行する煎茶文化のなかで、中国的な文人趣味に対する憧れから、このような古銅器写しが室内装飾として用いられた。初代秦蔵六(一八二三〜九〇)は京都に生まれ、龍文堂安平に師事して蠟型鑄造による古代中国の青銅器の模作を得意とした。明治六年(一八七三)に宮内省の依頼で金製の御璽印と国璽印を制作したことが知られる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzokan